

教育研究業績書

令和5年5月1日

氏名 浅井 航洋 

教育上の能力に関する事項

事項	年月	概要
1 教育方法の実践例		
1) 甲子園大学「心理学基礎セミナー」の学生教育指導	2021年9月～ 現在に至る	学部1・2回生を対象とした必修の少人数ゼミナールで、それぞれ8名程度の学生を担当した。初年次教育として大学に慣れることと、基礎的スキルを磨くことを目標に指導した。具体的にはゲームを通じた学生相互の関係構築や、プレゼンテーションの基礎演習を実施した。また個別面談を実施して学生の現状の把握に努めた。
2) 甲子園大学ステップアップ講座の学生教育指導	2021年5月～ 現在に至る	授業とは別に、読解力や文章表現力の向上を図る講座を希望者に対して実施した。特にわかりやすい文章や説明のコツとして、聞き手や読み手の立場を考えながら表現することの重要性を具体例を示しながら個別に文章の添削などの個別指導を行った。
3) 甲子園大学「ノート大賞・レポート大賞」の企画運営	2020年9月～ 現在に至る	他の教員と協同して、学生のノート・レポートを表彰する企画を実施した。学生からノートやレポートを募集し、応募作品すべてに対して複数教員によるコメントをつけて、学生が自身の学びを見つめ直すと共に、学修に対して肯定感を得られる機会を作った。
4) 甲子園大学「日本語表現」の学生教育指導	2020年4月～ 現在に至る	学部1回生を対象とした教養科目である。実用的な日本語の表現力を身につけることを目指した。パソコンでのメールのマナーや敬語の基礎、レポートなどの論理的文章の書き方を指導した。特にレポート執筆については個別に添削を行い、学生のライティング能力の向上を図った。
5) 甲子園大学「文学概論」「文学特論」の学生教育指導	2020年4月～ 現在に至る	学部1回生を対象とした教養科目である。「文学概論」では万葉集から近代文学までの日本文学の主要なジャンルについて、講義形式で概説した。「文学特論」では近代文学作品を対象として、作品の「語り」に注目して読解することを講義形式で実践した。
6) 光華女子大学「日本語コミュニケーション」「アカデミック	2018年9月～ 2020年3月	1回生の必修授業で、論理的な文章の読み書きについて講義と演習形式で指導した。主張と根拠をセットにするこ

様式第4号（教員個人に関する書類）

クライティング」の学生教育指導		と、事実と意見の区別などを説明し、それぞれが書いた文章についてピアレビュー形式で添削を行った。
7) 光華女子大学「京都学」の学生教育指導	2018年9月～ 2019年3月	1回生向けの教養科目で、オムニバス講義形式である。この内3回を担当し、京都を舞台とした川端康成『古都』について講義を行った。講義では同時代の資料を用いて、川端がどのように京都を描いているかについて具体例を挙げながら説明した。
8) 京都女子大学「講読近代」「国文学特殊講義」の学生教育指導	2016年4月～ 2020年3月	文学部国文学科向けの専門科目である。永井荷風や長田幹彦など、当時取り組んでいた研究について講義を行った。研究への導入として、作家や代表作に関して概説しつつも、通説の紹介にとどまらないようにその時取り組んでいる研究内容を反映することを心がけた。またコメントペーパーを利用して受講者からの質問に積極的に回答した。
2 作成した教科書・教材		
1) 新入生オリエンテーションでの国語力テスト（甲子園大学）	2021年4月～ 現在に至る	甲子園大学栄養学部の新入生に向けて、国語力テストを実施した。点数の低かった学生に対しては、教養科目「日本語表現」を受講するよう指導した。
2) 入学前指導教材（甲子園大学）	2021年2月	甲子園大学の次年度入学予定者に向けた事前学習用教材を作成した。読解力を強化するため、文章の要点を見つけ出して要約するワークシートを作成した。
3) 「日本語表現」パワーポイント資料（甲子園大学）	2020年4月～ 現在に至る	アカデミックライティングの授業において、教科書の理解を補助するパワーポイント資料を作成し、受講者に配布した。この資料は授業アンケートの自由記述でわかりやすいという回答が見られた。
3 教育上の能力に関する大学等の評価		なし
4 実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5 その他		なし
職務上の実績に関する事項		
事項	年 月	概要
1 資格、免許 図書館司書	2012年3月	京都大学にて所定の司書科目を全て取得した。

様式第4号（教員個人に関する書類）

高等学校教諭専修免許	2015年9月	教科：国語				
中学校教諭専修免許	2015年9月	教科：国語				
2 学校現場等での実務経験		なし				
3 実務の経験を有する者についての特記事項		なし				
4 その他		なし				
担当授業科目に関する研究業績等						
担当授業科目	著書、学術論文等の名称	単著 共著	発行 年月	出版社又は 発行雑誌等 の名称	執筆ページ数 (総ページ数)	概 要
日本語表現	(教育実践記録等) 1) 甲子園学院 高等学校「現代 の国語」の学生 教育指導	単	2022年4月 ～現在にい たる			1年生対象の評論文を読解する授業である。指導にあたって、評論文の内容よりも文章を読解する方法論を意識して指導した。たとえば対比させながら筆者の主張を押しさえるといったテクニックである。また評論と関連した新聞記事などをとりあげ、身近なレベルで問題を考えるよう指導した。
	2) 甲子園学院 高等学校「小論文」の学生教育指導	単	2021年4月 ～2022年3 月			大学でのアカデミックライティングの教育経験を踏まえ、単なる入試対策ではなく、大学生や社会人になっても使えるような実践的な文章表現力が身につけられるよう指導を行った。
	3) 大谷中学・ 高等学校「国語 総合」「現代文 B」の学生教育 指導	単	2017年4月 ～2020年3 月			1年生向け、2年生向けの現代文の授業を担当した。小説を扱った際には、研究で培った知見を活用し、必ずしも作者の意図にこだわらないテキスト論的解釈を推奨し、生徒にそれぞれ自分で解釈を考えるように指導した。

様式第4号（教員個人に関する書類）

文学概論	(教育実践記録等) 1) 甲子園学院 高等学校、大谷 中学・高等学校 「古典B」「古 典探究」の学生 教育指導	単	2018年 4月～ 2021年 3月、 2023年 4月～ 現在に 至る			2年生対象の古典・漢文の授業を担当した。授業に際して、古典文法をまとめたプリントや、授業ごとに単語の小テストを課して知識の定着を図った。提出課題に対して、ただ確認するだけではなく、コメントをつけて返却することを心がけた。
文学特論	(学術論文等) 1 長田幹彦 『霧』論	単	2022年 9月	女子大 國文	28	長田幹彦の通俗小説について問題提起を行った。その上で幹彦の初めての新聞連載小説『霧』（大正2～3）を取り上げ考察した。その成立について、北畑白秋や幹彦自身の女性関係が関わっているであろうことを指摘した。また作中の人物像には明治末期の女性の社会的位置に関する議論、いわゆる婦人問題の反映が見られること、また当時の煩悶する高等遊民的な青年を登場させている点に同時代の動向を取り込もうという幹彦の姿勢を指摘した。
	2 永井荷風作品における〈室内〉	単	2022年 3月	甲子園 大学紀 要	8	明治文学における〈室内〉という問題について、荷風作品を具体的事例として分析した。『帰朝者の日記』という作品について、当時の家屋改良言説と比較し、作品における室内描写がそれらの言説と重なる点が多いことを指摘した。西洋の家屋と異なり、当時の日本家屋は個室が存在していなかった。そうした構造が、独立した〈個人〉としての意識の欠如と結びつけて描かれていると結論づけた。
	3 永井荷風 『野心』論	単	2016年 3月	近代文 献調査 研究論 集	10	永井荷風の小説『野心』は、野心に燃える主人公が実家の反対を押し切って新しい商売を始めようとする小説である。本作の主人公の造型について、明治期の立身出世を推奨する言説と比較検討を行った。「意志の強さがあれば事業を成功させることができる」と述べる主人公は立身出世言説を内面化した存在であるという解釈を示した。また結末部は従来主

様式第4号 (教員個人に関する書類)

						人公の野望の破滅と捉えられてきたが、同時代言説を参考にすればそうとは言い切れない可能性を指摘した。
4	永井荷風 『風邪ごゝち』 論	単	2015年 2月	歴史文化 社会論 講座 紀要	15	永井荷風の小説『風邪ごゝち』について、為永春水の人情本『春色梅暦』や歌舞伎『絵本太功記』の参照、作品舞台となった新橋の地誌的特徴との関連について論じた。芸者と芸者に養われる男という『春色梅暦』の特徴的な設定を取り入れる一方で、主人公の内面的葛藤は『春色梅暦』には見られない設定であり、本作の独自性であることを指摘した。
5	永井荷風 『かたおもひ』 の主題と構想	単	2013年 3月	国語 国文	18	永井荷風の小説『かたおもひ』について、作品冒頭部と荷風の記事との類似からヒロインが新橋芸者の山勇をモデルとしていることを指摘した。山勇について当時の『都新聞』の花柳界関係の記事を調査し、彼女が歌舞伎役者の六代目市川寿美蔵（後の三代目市川寿海）の熱狂的な贗品であったこと、またそれが作中に取り入れられていることを指摘した。一方で作品化に際し、荷風がヒロインを新橋ではなく柳橋の芸者に改変していることを明らかにした。
6	永井荷風の 習作における 広津柳浪「河内 屋」からの影響	単	2011年 2月	歴史文化 社会論 講座 紀要	15	永井荷風は広津柳浪の弟子として作家デビューを果たした。この時期の荷風の作品は柳浪からの影響が見られることは従来指摘されてきたが、詳細な検討はなされてこなかった。そこで荷風の初期作品が、どのように柳浪作品からの影響を受けているかを具体的に検討した。柳浪の『河内屋』と荷風の『花ちる夜』を比較し、設定や筋立てに類似は見られるが、空間構造と人物関係を結びつける柳浪の技巧までは摂取できていない限界があることを指摘した。